

# 韓国語の助詞に関する教育（１）

## The Education on Postpositions in Korean Language

権 英 秀  
KWON Young-Su

This study has considered Korean postpositions in more details, based on results researched by Kwon(2018,2020). In Japanese, one grammatical form often expresses various meanings compared to in Korean. And since Japanese and Korean are similar in a certain way, only the corresponding grammatical forms in both languages are explained in some grammar texts or on educating of Korean language.

キーワード： 日本語、韓国語、助詞（は、が、を、で、に）

### 1. はじめに

著者（2020）は、「日本人にとって国語である日本語の文法ではなく、①日本人の立場で外国語（ここでは韓国語）の学習から見える日本語、②外国人から見る日本語の特徴」を研究し、韓国語と比べて6つの日本語の特徴が分かった。その中で助詞に関する特徴は2つがある。

表 1）日本語と韓国語の特徴

- |   |
|---|
| <p>①日本語は韓国語に比べて一つの文法形態がさまざまな意味を表す場合が多い。<br/>⇒日本語の各意味に対応する韓国語の文法形態がある場合は、日本語の文法の意味に応じて韓国語の文法形態を使い分けなければならない。</p> <p>②日本語は一つの文法形態にさまざまな品詞（「動詞・形容詞・形容動詞・名詞」）と組み合わせることができる。<br/>⇒韓国語の各文法は組み合わせられる品詞が決まっているものが多いため、「文法」と「文法の前に来る品詞」との結束関係を理解しなければならない。</p> |
|---|

また、韓国語の教育に関するテキストにある文法は用語や構成にばらつきがあり（菅野（1963）、金（2005））、韓国語と日本語が似ていることから、日本語の文法を短絡的に韓国語の文法に対応させており、日本語の文法の意味による使い分けや、韓国語に対応できない文法の説明など

が不十分である（権（2018））。

本研究は、これらの先行研究を踏まえて日本語と韓国語の助詞について、日本人韓国語学習者<sup>1</sup>の誤用（作文、会話）や質問を参考に考察する。

## 2. 助詞「は・が・を」

### 2.1 「はーが」について

韓国語のテキストや教育では、日本語と韓国語の助詞「は」は「主題・対比」を表す時に、助詞「が」は「主体」を表す時に使うと説明している。しかし、例１のように、日本語では助詞「は」を、韓国語では助詞「가 (이/가)」を主に使う場合についてはあまり説明が行われていない<sup>2</sup>。

例１)

日本語	韓国語
名前 <u>は</u> 何ですか。	이름 <u>이</u> 뭐예요? (名前 <u>が</u> 何ですか。)
ここ <u>は</u> どこですか。	여기 <u>가</u> 어디예요? (ここ <u>が</u> どこですか。)

日本語と韓国語において、話し手の意図や言語状況・環境によっては日本語の「名前は何ですか。」を韓国語で「이름은 뭐예요?」という場合もあるが、通常は例１のように表現する。これは日本語と韓国語の「はーが」の使い分けが、両言語のコミュニケーション・スタイルかもしれないため、韓国語のテキストや教育で説明が行われたいと考えられる。

しかし、初級レベルの日本人韓国語学習者の多くは例１について疑問を感じている。また、助詞「はーが」の使い分けをせず、日本語の助詞「は」に韓国語の助詞「은/는 (は)」を、日本語の助詞「が」に韓国語の助詞「이/가 (が)」を対応させて韓国語を駆使する場合は韓国人に意味は通じるものの、ニュアンスは異なるため、正確に意図を伝えることもできない。

韓国語の助詞「이/가 (が)」は、①新情報を表し、または②助詞「가」の後ろに続く内容を強調する場合に使う。そのために、日本語の「名前は何ですか。」の場合は相手の名前を聞く、即ち、新情報を求めており、相手の名前に該当する「何ですか」を強調するために韓国語では助詞「이/가 (が)」が使われるのである。

半面、韓国語の助詞「은/는 (は)」は、①旧情報や互いに知っている情報を表し、または②助詞「은/는 (は)」の前にある内容を強調したり、対比したりする時に使うことから、例２のように、名前を聞かれた人は本人の名前を言う場合に助詞「은/는 (は)」を使うのである。

例2)

A : 이름이 뭐예요? (名前が何ですか。)

B : 제 이름은 000 입니다. (私の名前は000です。)

## 2.2 「がーを」について

助詞「はーが」の使い分けは両言語のコミュニケーション・スタイルによるものであるため、誤用があっても韓国人に意味が伝わることもある。しかし、助詞「がーを」の使い分けは誤用した場合、意味が伝わらず、時には誤解が生じることもある。そのために、日本語と韓国語の助詞「がーを」の使い分けは韓国語のテキストや教育で助詞「はーが」と違って練習が行われている。しかし、以下のようにテキストに挙げているもの<sup>3</sup>は限られている。

表2) 助詞「がーを」の使い分け

日本語	韓国語
が好きだ	을/를 좋아하다 (を好きだ)
が嫌いだ	을/를 싫어하다 (を嫌いだ)
が分かる	을/를 알다 (を分かる)
が分からない	을/를 모르다 (を分からない)

助詞「がーを」の使い分けは、日本人韓国語学習者にとって混同しやすいものである。そのためにテキストでは練習問題を通して学習させている。しかし、なぜ助詞「がーを」の使い分けが必要であるかについては説明がないまま、ただ韓国語の特徴として扱われている。また、助詞「がーを」の使い分けは上記の4つのパターン以外にも多くあるため、まず学習者に助詞の使い分けの原理や理由などをしっかり説明し、応用できるようにすべきだと考える。

表3) 日本語・韓国語・英語における文の構造

日本語	私は本 <u>を</u> 読みます。 <u>S</u> + <u>O</u> + <u>V</u>	*私はあなた <u>が</u> 好きです。 <u>S</u> + <u>O</u> + <u>V</u>
韓国語	저는 책 <u>을</u> 읽습니다. <u>S</u> + <u>O</u> + <u>V</u>	저는 당신 <u>을</u> 좋아합니다. <u>S</u> + <u>O</u> + <u>V</u>
英語	I read <u>a book</u> . <u>S</u> + <u>V</u> + <u>O</u>	I love <u>you</u> . <u>S</u> + <u>V</u> + <u>O</u>

「対象や目的」を表す際に韓国語は通常助詞「을/를（を）」を使い、英語の場合は動詞の後ろに目的語を置く。日本語も「私は本を読みます」のように原則助詞「を」を使うが、「好きだ」のようにいくつかの動詞や形容動詞の場合は助詞「が」を使う。即ち、助詞「がーを」の使い分けは韓国語の特徴ではなく、日本語の特徴と言っても過言ではない。したがって、助詞「がーを」の使い分けを教える場合は上記のように各言語の統語論的アプローチや、日本語における助詞「が」の使い方について説明を行う必要がある。

表４）日韓両言語の助詞「が」の使い方

日本語		韓国語
・私は <u>あなた</u> <u>が</u> 好きです。	→	・저는 당신 <u>을</u> 좋아합니다. 私は <u>あなた</u> <u>가</u> 好きです。
・私 <u>が</u> <u>あなた</u> <u>が</u> 好きです（？）		・제 <u>가</u> 당신 <u>을</u> 좋아합니다. 私 <u>가</u> <u>あなた</u> <u>가</u> 好きです。 <u>主体「が」</u> <u>対象「が」</u>

また、「好きだ」の韓国語は「좋다」、「좋아하다」などがあり、助詞「がーを」の使い分けは「좋아하다」だけ起きるのである。なぜなら韓国語の「좋아하다」は動詞であり、動詞の「目的・対象」を表すために助詞「을/를（を）」が必要だからである。「좋다」は形容詞であるため、助詞「がーを」の使い分けは起きない。これは「嫌いだ」も同様である。

例３）

・私はあなた가好きです。

動詞「좋아하다」：저는 당신을 좋아합니다.          \*助詞「がーを」の使い分け

形容詞「좋다」：저는 당신이 좋습니다.

例４）

・私は辛い食べ物가嫌いです。

動詞「싫어하다」：저는 매운 음식을 싫어합니다.          \*助詞「がーを」の使い分け

形容詞「싫다」：저는 매운 음식이 싫습니다.

韓国語のテキストや教育では表２の内容しかないが、他にも「がーを」の使い分けを間違えると誤用が起きる場合がある。

表 5) 日本語・韓国語・英語における文の構造

日本語	私は <u>水</u> <u>を</u> 飲みます。 <u>S</u> + <u>O</u> + <u>V</u>	* 私は <u>水</u> <u>が</u> 飲みたいです。 <u>S</u> + <u>O</u> + <u>V</u>
韓国語	저는 <u>물</u> <u>을</u> 마십니다. <u>S</u> + <u>O</u> + <u>V</u>	저는 <u>물</u> <u>을</u> 마시고 싶습니다. <u>S</u> + <u>O</u> + <u>V</u>
英語	I drink <u>water</u> . <u>S</u> + <u>V</u> + <u>O</u>	I want to drink <u>water</u> . <u>S</u> + <u>V</u> + <u>O</u>

「水を飲む」場合、日本語は水を対象として助詞「を」を使い、韓国語・英語も同様に水を目的語にする。しかし、「水を飲む」＋「たい」という希望表現にした場合、日本語は「水＋を」を「水＋が」に表現することができる。しかし、韓国語・英語は水を目的語のまま希望表現にする。したがって、日本人韓国語学習者が韓国語の希望表現をする場合、助詞「가」を韓国語の助詞「을/를 (を)」にすることを理解しなければならない。

また可能表現の場合も助詞「がーを」の使い分けがあることを注意しなければならない。

表 6) 日本語・韓国語・英語における文の構造

日本語	私は <u>酒</u> <u>を</u> 飲みます。 <u>S</u> + <u>O</u> + <u>V</u>	* 私は <u>酒</u> <u>が</u> 飲めます。(私は <u>酒</u> <u>を</u> 飲むことができます。) <u>S</u> + <u>O</u> + <u>V</u> <u>S</u> + <u>O</u> + <u>V</u>
韓国語	저는 <u>술</u> <u>을</u> 마십니다. <u>S</u> + <u>O</u> + <u>V</u>	저는 <u>술</u> <u>을</u> 마실 수가 있습니다. <u>S</u> + <u>O</u> + <u>V</u>
英語	I drink <u>alcohol</u> . <u>S</u> + <u>V</u> + <u>O</u>	I can drink <u>alcohol</u> . <u>S</u> + <u>V</u> + <u>O</u>

日本語・韓国語・英語は共に「酒を飲む」表現において酒を目的語にしている。したがって、日本語と韓国語は助詞「を」と助詞「을/를 (を)」を使い、英語は動詞の後ろに目的語 (alcohol) を置く。しかし、「酒を飲む」表現を可能表現に変える場合、韓国語と英語は「酒を飲む」と同様な構造と文法形態であるが、日本語の場合は助詞「を」を助詞「が」で表すことができる。言い換えれば、日本語の可能表現で「目的・対象」＋助詞「が」の場合は、韓国語では助詞「을/를 (を)」にしなければならないのである。

## 2.3 助詞「を」+助詞「も」について

日本語と韓国語は助詞同士の組み合わせができる言語である。しかし、いくつかは日本語では可能であっても韓国語では組み合わせることができない<sup>4</sup>。その一つが助詞「を」と助詞「も」の組み合わせである。

例5)

溺れる者は + 藁+ <u>を</u> +掴む （通常の助詞） = 溺れる者は藁 <u>を</u> 掴む 藁+ <u>も</u> +掴む
---

日本語と韓国語の場合、他動詞の前に助詞「を」が来る。例5の場合も他動詞の「掴む」の対象「藁」を表すために助詞「を」を使っている。また、「強調の意味を表す場合」や「不特定の物の中で一つを上げる場合」に使う助詞「も」を使うことによって、「藁を掴む」+「藁も掴む」の意味を組み合わせている。しかし、韓国語では他動詞の前に来る助詞「を」は推測できるため、助詞「も」だけを使っても意味が通じることから、以下のように表現することになる。

・溺れる者は藁を掴む → 물에 빠진 사람은 지푸라기라도 잡는다  
 （溺れる者は藁でも掴む）

また、例6も同様に他動詞「得る・得ない」は助詞「を」と組み合わせている。そして、一匹すら掴むことができないと強調するために助詞「も」を付け加えている。そのために、韓国語では助詞「も」だけで表現できる。

例6)

・二兎を追う者は一兎を得ず  
 → 두 마리 토끼를 쫓는 사람은 한 마리 토끼도 얻을 수 없다.

二兎を追う者は + 一兎+ <u>を</u> +得ない（通常の助詞） = 二兎を追う者は一兎 <u>を</u> 得ず 一兎+ <u>も</u> +得ない
---

## 3. 助詞「で」について

### 3.1 助詞「で」の意味において

日本語と韓国語は、同じ言語で、表す手段（文字）だけ（日本語は「平仮名・片仮名・漢字」、韓国語は「ハングル」）が異なるものではなく、そもそも両言語が異なっている。即ち、日本語

と韓国語には文法同士が対応するものもあり、対応できないものもあるということである。しかし、語学教育の問題点の一つは両言語の文法が対応するものだけを教育し、対応しないものは教育しないため、学習者にとって両言語は同じ言語で、表す文字だけが異なると考えがちである。したがって、日本人韓国語学習者は日本語に対応する韓国語の文法形態を用いて、意味が異なったり韓国語では使わなかったりする場合（表現）にも日本語の文法に対応させてしまう恐れがある。

詳しくみると、日本語の助詞「で」は韓国語に対応する文法形態を主に「場所」を表す「에서」と「手段・理由<sup>5</sup>」を表す「로/으로」として韓国語のテキストや教育で説明している。したがって、「場所・手段・理由」以外の意味で使われる韓国語の助詞「で」の場合であっても、日本人韓国語学習者は「場所・手段・理由」の「에서, 로/으로」で処理する傾向があるものの、以下のように日本語の助詞「で」は韓国語ではさまざまな意味と文法形態で韓国語を表さなければならない場合がある。

例 7)

- ・ 2人<sup>□</sup>でカラオケに行く：2人という単語は場所・手段を表す表現ではない。
  - a) 2人<sup>は</sup>カラオケに行く。→두 사람<sup>은</sup> 노래방에 가다.
  - b) 2人<sup>が</sup>カラオケに行く。→두 사람<sup>이</sup> 노래방에 가다.
  - c) 2人<sup>で</sup>カラオケに行く。→두 사람<sup>이서</sup> 노래방에 가다.

例 8)

- ・ リンゴは1個<sup>□</sup>いくらですか。：1個は場所・手段ではなく、リンゴの値段・相場を聞く。
  - a) リンゴ1個<sup>は</sup>いくらですか。→사과 한개<sup>는</sup> 얼마입니까?
  - b) リンゴは一個あたり<sup>□</sup>いくらですか。→사과 한개<sup>에</sup><sup>6</sup> 얼마입니까?

例 9)

- ・ これは鉛筆<sup>□</sup>で、あれはペンです。
  - ：この場合の「で」は「であるし、であって、であり」等の接続語尾を表す。
  - a) これは鉛筆<sup>□であり</sup>、あれはペンです。
    - 이것은 연필<sup>이</sup>고 저것은 펜입니다.
  - b) これは鉛筆<sup>□であるが</sup>、あれはペンです。
    - 이것은 연필<sup>이지만</sup> 저것은 펜입니다.

韓国語のテキストや教育では、日本語の文法と韓国語の文法を学生が比較し、暗記しやすく対応させて説明をしている。これは教員も同様であって、学生に両言語の文法をまるで1対1

であり、すべての文法同士が対応しているように教育をしている。この意味は、前述したように「日本語と韓国語は同じ言語であるが、表す文字（日本語なら「平仮名・片仮名・漢字」、韓国語なら「ハングル」）だけが異なる」ということになる。しかし、両言語は文化や社会、伝統などさまざまな言語歴史によって作られたものであるため、必ず両言語のすべての文法が対応できることは事実上有り得ない。したがって、韓国語のテキストや教員は対応できる文法も説明し、対応できない文法の説明およびその際の表現の仕方、例、注意点などもしっかり教えないといけない。

### 3.2 助詞「で」＋助詞「も」

2.3 でも述べたように、日本語と韓国語は助詞同士の組み合わせができる言語である。しかし、権（2020）でも指摘したように「日本語は韓国語に比べて一つの文法形態がさまざまな意味を表す場合が多い」ため、日本人韓国語学習者が誤用をおかすことがある。

例 10)

- ① ここでも練習ができます。
- ② ご飯でも食べに行きましょう。

例 10 の①は「ここで」＋「ここも」＋「練習ができます」という意味を表すために助詞「で」と助詞「も」を組み合わせた。韓国語も同様、助詞「에서（で）」と助詞「도（も）」を組み合わせ「여기에서도 연습을 할 수 있습니다.」と表現ができる。

しかし、例 10 の②の場合は①と同じ文法形態をしているものの、助詞「で」と助詞「も」の組み合わせではない。意味上分析しても、「ご飯で」＋「ご飯も」＋「食べに行きましょう」にならず、「ご飯で」の助詞「で」は「手段・理由・場所」の意味ではなく、また 3.1 のように他の意味で解釈することもできない。

例 11)

場所の意味	<u>で</u> ＋ <u>も</u> = <u>에서</u> <u>도</u>
手段・理由の意味	<u>で</u> ＋ <u>も</u> = <u>로</u> <u>도</u> / <u>으로</u> <u>도</u>

例 10 の②における「でも」は、さまざまな選択の中で一つの例を挙げる際に使う文法である。即ち、食事におけるさまざまなメニューの中で（「ご飯を食べる。」「ラーメンを食べる」など）、「ご飯」という例を挙げながら誘っている。この場合における韓国語の「でも」は「나/이나」を使い、「밥이나 먹으러 갈까요?」と表現することができる。



## 4. 助詞「に」について

### 4.1 助詞「に」の意味について

日本語の助詞「に」は、さまざまな意味（「場所の基点を表す」、「時間を表す」、「到達点を表す」、「相手を表す」、「目的を表す」、「副詞を表す」など）で使われている。しかし、韓国語のテキストではばらつきがあるため、日本人韓国語学習者は助詞「に」についてすべての意味と韓国語の文法形態を学習しない限り、使いこなせず、応用することもできない。

表7) 助詞「に」の意味

場所の基点・到着点	学校に行く。
方向	・韓国に（へ）行く。・2階に（へ）上がる。
時間	・12時にご飯を食べる。・3時に会う。
相手	・先生に質問する。・親に電話する。
目的	・買いに行く。・食べに行く。
副詞	・一緒に、・一所懸命に、・安全に

日本語の助詞「に」は上記のように6つの意味に分類することができ、韓国語ではそれぞれの意味に対応する文法形態がある。そのため、日本人韓国語学習者がすべての意味を学習するまで、習っていない「に」は韓国語に表すことができない。また多くの学習者は習った韓国語の「に」を用いて、習っておらず意味が異なる日本語の助詞「に」を韓国語で表そうとすることが初心者の場合に多く見られる。そして、テキストによってはすべての「に」の意味が説明されていない場合もある。したがって、韓国語の教育者は「に」の教授法を工夫する必要性があり、学習者も「に」の意味はもちろん、使い分け方や文法形態を覚えなければならない。

表8) 日本語の「に」に対する韓国語の文法形態

場所の基点・到着点	에 : 学校 <u>に</u> いる。→ 학교 <u>에</u> 있다.
方向	로/으로 : 韓国 <u>に</u> （へ）行く。→ 한국 <u>으로</u> 가다.
時間	에 : 12時 <u>に</u> ご飯を食べる。→ 12시 <u>에</u> 밥을 먹다.
相手	에게, 한테 : 先生 <u>に</u> 質問する。→ 선생님 <u>에게</u> 질문하다.
目的	러/으러 : 買い <u>に</u> 行く。→ 사 <u>러</u> 가다.
副詞 <sup>7</sup>	이, 히, 게 : 一緒 <u>に</u> : 같 <u>이</u> 、一所懸命 <u>に</u> : 열심 <u>히</u> 、安全 <u>に</u> : 안전하 <u>게</u>

#### 4.2 助詞「に」の「場所－方向」について

助詞「に」の意味の中で、「場所の基点・到着点」と「方向」を表す韓国語の「에」と「로/으로」の使い分けが必要になる。なぜなら「場所の基点・到着点」と「方向」を表す日本語と韓国語の構造（名詞＋に）が似ているからである。即ち「場所の基点・到着点」と「方向」は話し手の意図による使い分けであり、また韓国語の文法形態やニュアンスも話し手の意図によって決まるわけである。

例 12)

①学校<sup>에</sup>います。

②学校に行きます。

「（場所を表す）名詞＋に」の構造の場合は、助詞「に」の「場所の基点・到着点」と「方向」の意味を表すことができる。例 12 の①と②は両方とも「（場所を表す）名詞＋に」の構造である。したがって、「学校（名詞）＋に」の助詞「に」は「場所の基点・到着点」と「方向」の意味として考えられる。しかし、例 12 の①の場合は、「いる」という状態動詞を使うことによって、「場所の基点・到着点」の意味で表したことが分かり、韓国語も「학교<sup>에</sup> 있다」と表現できる。

半面、②の場合は「行く」動詞があるため、「学校という到着点（地）」に行くという意味と「学校の方面」に行くという意味に解釈ができる。したがって、②の場合は話し手が「場所の基点・到着点」と「方向」の中でどの意味で表現したいかによって、韓国語の文法形態が決まることになる。初級レベルの日本人韓国語学習者は「場所の基点・到着点」と「方向」の区別が苦手であり、使い分けを丁寧にしない場合がある。

特に「方向」を表す助詞「に」は、単に方向だけを表すのではなく、含み（ニュアンス）があることを注意しなければならない。

例 13)

（出張のために）私は東京<sup>에</sup>行きます。

①저는 도쿄<sup>에</sup> 갑니다.

②저는 도쿄<sup>로</sup> 갑니다.

「（場所を表す名詞）東京＋に」の構造であり、助詞「に」は「場所の基点・到着点」と「方向」の意味で表すことができる。したがって、例 13 の①は出張先が東京（到着点）であることにフォーカスを置いて「에」で表している。しかし、「方向」の「로/으로」で書いた例 13 の②の場合は「単に東京の方面に出張する」という意味だけではなく、「さまざまな出張先がある中

で今回は東京へ行く」という含み（ニュアンス）を読み取ることができる。

よって、「(場所を表す) 名詞+に」の構造の場合は助詞「に」の「場所の基点・到着点」と「方向」の使い分けは重要であり、韓国語のテキストや教育ではこの点を必ず教えなければならない。

#### 4.3 目的を表す助詞「に」について<sup>8</sup>

日本語で「ある行動をする」ために、または「目的を達成する」ために、動詞（連用形）の後に「に」を付けて表現する。韓国語も同様に動詞の語幹に「러/으러（に）」を付けて目的を表す。

例 14)

①友達と映画を見に映画館に行きました。 (見る（動詞）＝보다)

=친구와 영화를 보러 극장에 갔습니다.

②パソコンを買いに来ました。 (買う（動詞）＝사다)

=컴퓨터를 사러 왔습니다.

③キムチ鍋を食べに店に行きました。 (食べる（動詞）＝먹다)

=김치찌개를 먹으러 가게에 갔습니다.

④質問をしに電話をしました。 (する（動詞）＝하다)

=질문을 하러 전화를 했습니다.

しかし、日本語では「名詞+に」の形式で目的を表す場合もある。

例 15)

①お母さんとデパートに買い物に行きました。

[名詞]

②運動に行きましようか。

[名詞]

③友達と韓国の旅行に行く話をしました。

[名詞]

④韓国語の勉強に韓国へ行きます。

[名詞]

例 15 の「買い物、運動、旅行、勉強」は名詞であるため、例 14 のように「ある行動をする」・「目的を達成する」という意味を表すために「に」の前は動詞がなければならない（「動詞＋に」）。しかし、例 15 の「に」の前にある名詞はすべて「買い物する・運動する・旅行する・勉強する」という動作・行動をイメージすることができるため、品詞は名詞であるが、意味上は動詞として解釈できることから、日本語ではこのような名詞を「動作性名詞」に分類し、目的を表す「に」と名詞を組み合わせても正しい日本語になる（「名詞＋に」）。

しかし、例 15 をそのまま韓国語に表現することはできない。a) まず「쇼핑（買い物）、운동（運動）、여행（旅行）、공부（勉強）」の韓国語の名詞は動作や行動を表す「動作性名詞」ではない。b) そして目的を表す韓国語「리/으리」は必ず動詞の語幹に付く文法である。こうした理由によって韓国語で表すためには韓国語の名詞を動詞に変えた後に（a）の解決法）、その動詞の後に「리/으리」を付けて（b）の解決法）表現しなければならない。

例 16)

①お母さんとデパートに買い物に行きました。

어머니와 백화점에 쇼핑하러 갔습니다.

(쇼핑하다＋리＝動詞＋に： 買い物しに)

②運動に行きませんか。

운동하러 갑시다.

(운동하다＋리＝動詞＋に： 運動しに)

③友達と韓国の旅行に行った話をしました。

친구와 한국 여행하러 갔던 이야기를 했습니다.

(여행하다＋리＝動詞＋に： 旅行しに)

④韓国語の勉強に韓国へ行きます。

한국어를 공부하러 한국에 갑니다.

(공부하다＋리＝動詞＋に： 勉強しに)

上記のように日本語の「動作性名詞」は韓国語の名詞に「하다（する）または을/를 하다（を）」<sup>9</sup>を入れて名詞を動詞化すれば正しい韓国語に直すことができる。

#### 4.4 助詞「にーを」について

2.2 の「がーを」ように、助詞「にーを」の使い分けも誤用した場合、意味が伝わらず、時には誤解が生じることもあるため、日本語と韓国語の助詞「にーを」の使い分けは韓国語のテキストや教育で練習が行われている。しかし、以下のようにテキストに挙げているものは限られている。

表9) 助詞「にーを」の使い分け

日本語	韓国語
に <u>乗る</u>	<u>을/를</u> 타다 (을 <u>乗る</u> )
に <u>会う</u>	<u>을/를</u> 만나다 (을 <u>会う</u> )
風邪 <u>を</u> 引く	감기 <u>에</u> 걸리다 (風邪 <u>に</u> 引かれる・かかる)

まず、注意しなければならない助詞「にーを」の使い分けは「に会う」である。なぜなら助詞「に」の意味において「相手を表す」場合は「生きものを表す名詞<sup>10</sup>に」の構造であり、「に会う」の場合（「生きものを表す名詞」＋「に」＋「会う」）も似た構造であるため、初級レベルの日本人韓国語学習者は多く混同するからである。

例 17)

①先生に質問します。

②先生に会います。

「(生きものを表す) 名詞に」の構造の場合は、助詞「に」の「相手」の意味を表すことができる。例 17 の①と②は両方とも「(生きものを表す) 名詞に」の構造である。したがって、例 17 の①も②も「선생님에게」または「선생님한테」と表すことができる。しかし、例 17 の②の場合は、「会う」という動詞を使うことによって、「先生」を「対象」として助詞「を」で韓国語を「선생님을」と表現する。この点は 2.2 と同様、各言語の統語論的アプローチや、日本語における助詞「を」と助詞「に」の使い方の説明を行う必要があるところである。

表 10) 日本語・韓国語・英語における文の構造(「例 17 の①」との比較)

日本語	私は先生 <u>に</u> 質問します。
韓国語	저는 선생님 <u>에게</u> 질문합니다.
英語	I ask a question <u>to</u> my teacher.

表 11) 日本語・韓国語・英語における文の構造(「例 17 の②」との比較)

日本語	私は本 <u>を</u> 読みます。 <u>S</u> + <u>O</u> + <u>V</u>	*私はあなた <u>に</u> 会います。 <u>S</u> + <u>O</u> + <u>V</u>
韓国語	저는 책 <u>을</u> 읽습니다. <u>S</u> + <u>O</u> + <u>V</u>	저는 선생님 <u>을</u> 만납니다. <u>S</u> + <u>O</u> + <u>V</u>
英語	I read a book. <u>S</u> + <u>V</u> + <u>O</u>	I meet a teacher. <u>S</u> + <u>V</u> + <u>O</u>

表 10 の場合、日本語・韓国語・英語はともに「相手（先生、선생님、teacher）」の意味を表している。半面、表 11 の場合は、「対象や目的」を表す際に韓国語は通常助詞「을/를（を）」を使い、英語の場合は動詞の後ろに目的語を置く。無論日本語も「私は本を読みます」のように原則助詞「を」を使うものの、「会う」のようにいくつかの動詞の場合は助詞「に」を使う日本語の特徴がある。

そして、表 9 の「に乗る」・「に会う」は、日本語と韓国語における助詞の使い方が異なることによる助詞「に－を」の使い分けであるが、「風邪を引く」の場合は、両言語の動詞<sup>11</sup>（または表現<sup>12</sup>）が異なることによる助詞「に－を」の使い分けである。日本語の「風邪を引く」は、韓国語では「病氣にかかる」という意味で「風邪にかかる＝감기에 걸린다」と表現するため、日本語の助詞「を」を韓国語の助詞「に」に表現しなければならない。

他にもよく韓国語のテキストにある例として「電話に出る」、「～に代わってください」などもある。日本語の「電話に出る」は、韓国語では「電話を受ける＝전화를 받다」と表現するため、日本語の助詞「に」は韓国語では助詞「を」にする。また日本語で電話中に「～に代わってください」という表現は、日本語の「代わる」を韓国語では他動詞の「代える」を使って、「～を代えてください＝을/를 바꿔 주세요」と表現するため。他動詞と組み合わせる助詞「を」にしなければならない。よって、日本語と韓国語は、自・他動詞の対応が一致しておらず、慣用表現も多いことによって助詞の使い分けがあることから、韓国語の教育者は日本人韓国語学習者に対して、自・他動詞の「活用」と「助詞との組み合わせ方」、そして慣用表現について学習させなければならない<sup>13</sup>。

#### 4.5 助詞「に－が」について

繰り返しになるが、「日本語と韓国語は、同じ言語で、日本語は平仮名・片仮名・漢字、韓国語はハングルのように表す手段（文字）だけが異なるものではなく、そもそも両言語が異なっている」。したがって、日本語と韓国語には文法同士で対応するものもあり、2.2、4.4 のように対応できないものも多々ある。

例 18)

- ①私は先生に質問します。
- ②私は先生に会います。
- ③私は先生になりたいです。

例 18 の①と②は 4.4 で確認したように、①の助詞には「相手」を表すため、韓国語では「저는 선생님에게 (한테) 질문합니다.」、②の場合は「저는 선생님을 만납니다.」となる。しかし、例 18 の③では、①の助詞「에게、한테」と②の助詞「을/를」は使えず、助詞「이/가 (가)」を用いて「저는 선생님이 되고 싶습니다.」と表現しなければならない。

③の「先生」＋「に」は、①と②のように将来になりたい職業（先生）を言うため、「相手」や「対象・目的」を表す意味ではなく、2.1 で考察したように「新情報」を表すための助詞「이/가 (가)」が使われるのである。

さらに「になる」の助詞「に」が韓国語で助詞「이/가」で表すことによって、注意しなければならない点がある。

例 19)

- ①ここには本がないです。
- ②先生にはなりたくないです。

例 19 の①では、「ここに」＋「ここは」＋「本がない」という意味を表すために助詞「に」と助詞「は」を組み合わせた。これは韓国語も同様に助詞「に」と助詞「は」を組み合わせて「여기에는 책이 없습니다.」と表すことができる。しかし、例 19 の②では「になる」に強調を表す助詞「は」を組み合わせて「にはなる」の表現ができるため、日本人韓国語学習者は例 18 の③を活用して、「선생님이는 되고 싶지 않습니다.」と表現する場合がある。

日本語では、助詞「が」と助詞「は」は組み合わせることができない（「～がは：×」）。この点は韓国語も同様に助詞「이/가 (가)」と助詞「은/는 (は)」を組み合わせることはできない。また、2.3 でも述べたように日本語の「名詞」＋「助詞 (には)」＋「되다 (なる)」の表現で、①日本語の助詞「に」は韓国語の助詞「이/가 (가)」が推測でき、②助詞「は」との組み合わせができないことを考慮し、③助詞「は」の意味を表すために、推測できる助詞「가」を省略して、助詞「は」だけで韓国語を表す（「선생님은 되고 싶지 않습니다.」）。

以上のように、助詞「に」は「にーで (例 8)」、「にーを (4.4)」、「にーが」など、日本語と韓国語の対応が異なる場合が多いことを学習者は注意しなければならない。

## 5. まとめ

現在の韓国語のテキストと教育においては、日本語と韓国語が似ていることから、日本語と韓国語の文法が対応しているものだけを中心に説明および練習が行われている。しかし、日本語と韓国語は本来異なる言語であるため、対応しない・できない文法が多々あり、日本人韓国語学習者に両言語の文法が対応できないケースも取り上げ、説明と練習を行う必要性を感じたことから、筆者（2018、2020）は研究を行い、「①日本語の文法を短絡的に韓国語の文法に対応させており、日本語の文法の意味による使い分けや、韓国語に対応できない文法の説明などが不十分である。②日本語は韓国語に比べて一つの文法形態がさまざまな意味を表す場合が多い。③日本語は一つの文法形態にさまざまな品詞（「動詞・形容詞・形容動詞・名詞」）と組み合わせることができる。」の結果が得られた。

本研究は筆者（2018、2020）の研究結果を踏まえて、日本語と韓国語の助詞（は・が・を・で・に）について、韓国語のテキストや教育では説明や練習をあまり行わない内容を取り上げた。取り上げた内容は、日本人韓国語学習者が韓国語のテキストや教育で学習した内容だけでは応用できないものが多く、特に初級レベルの日本人韓国語学習者にとっては活用ができないものである。さらに日本語と韓国語の異なる使い分け・使い方であるため、初級レベルにおいて説明と練習が要される内容でもある。

したがって、今後韓国語のテキスト制作や教育を行う場合は、既存の教育法（両言語において対応する文法だけを説明し、練習させる。）を変え、（特に初級レベルの）日本人韓国語学習者の目線でより丁寧に詳しく韓国語のテキスト制作や教育を行うべきだと考える。

<sup>1</sup> 新潟大学の2010年～2020年の1年生を対象にしたものである。

<sup>2</sup> 特に助詞「は」と「が」の相違点について説明があるテキストはない（著者が知っている限り）。

<sup>3</sup> 他に「に乗る、に会う、になる、風邪をひく」は助詞「に」で扱う。

<sup>4</sup> 逆に韓国語では可能であっても日本語では組み合わせることができない場合もある。

<sup>5</sup> 助詞「で」の意味には、手段と理由を表すことができるが、多くのテキストや授業では手段の意味だけを主に説明している。

<sup>6</sup> 他に「途中で」→「도중<sup>에</sup>」など。

<sup>7</sup> 他に「直接に」→「직접<sup>적</sup>으로：直接的に」など。

<sup>8</sup> 権（2020）を引用する。

<sup>9</sup> 場合によって、「する」の代わりに他の動詞を入れることもある。

例）スキーに行く：스키 타러 가다（스키 타다+러）

<sup>10</sup> 人や動物など。

<sup>11</sup> 両言語における自動詞・他動詞の種類や対応関係など。

<sup>12</sup> いわゆる慣用表現を言う。

<sup>13</sup> このような学習は辞書の活用によって学習者が参考・応用できるため、辞書の活用法も教育者が日本人韓国語学習者に教育し、練習させなければならない。



## 参考文献

- 金 泰虎 (2005) 「日本における韓国語教育の諸問題：初級韓国語テキストの文法用語・収録内容・語彙数、そして大学授業検定試験との関連性を中心に」『言語と文化』第 9 号 甲南大学 pp. 217-235.
- 権 英秀 (2017a) 「日韓両言語の否定形について—日本人大学生の作文から—」『言語の普遍性と個別性』第 8 号 新潟大学 pp. 41-55.
- (2017b) 「韓国語の統語的アプローチ」『言語文化研究』第 22 号 新潟大学 pp. 11-24.
- (2018) 「韓国語教育の問題点と提案—テキストと授業について—」『ことばとくらし』第 30 号 新潟県ことばの会 pp. 左 30-43.
- (2020) 『韓国語教育における日本語の文法について—国語ではない外国語の観点から—』『言語の普遍性と個別性』第 11 号 新潟大学 pp. 15-31.
- 菅野裕臣 (1963) 「朝鮮語教授の若干の問題点」『朝鮮研究月報』第 15 号 日本朝鮮研究所.
- 고영근・구분관 (2014) 『우리말 문법론』 집문당.
- 남기심・고영근 (2014) 『표준국어문법론』 박이정.

## 辞典

- 『現代言語学辞典』(1988) 田中春美他 (編) 成美堂.
- 『朝鮮語大辞典』(1985) 大阪外国語大学朝鮮語研究室 (編) 角川書店.
- 『日本語教育辞典』(1983) 日本語教育学会編 大修館書店.

## テキスト

- 『改訂版韓国語レッスン初級 I』(2003) 金東漢・張銀英 (著) スリーエーネットワーク.
- 『韓国語講座 1』(2009) 金東順 (著) 白帝社.
- 『韓国語の文法バイブル』(2015) 権英秀 (著) .
- 『韓国語の文法講義ノート上・下』(2015) 権英秀 (著) .
- 『基礎から学ぶ韓国語講座初級』(2005) 木内 明 (著) 国書刊行会.
- 『これで話せる韓国語 STEP1』(2015) 入佐信宏・金孝珍 (著) 白帝社.
- 『最新チャレンジ韓国語』(2014) 金順玉・坂堂千津子 (著) 白水社.
- 『新好きやねんハングル I』(2009) 高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク西ブロック編集チーム (著) 白帝社.
- 『総合韓国語 1』(2001) 油谷幸利・南相璽 (著) 白帝社.
- 『朝鮮語を学ぼう』(2003) 朝鮮語学研究会 (著) 三修社.
- 『日本人のためのはじめての韓国語』(2008) 玄充鍋 (著) 白帝社.
- 『ミニマム韓国語』(2006) 高秀賢 (著) 国書刊行会.
- 『みんなの韓国語 1』(2009) 吉本一・中島仁・石賢敬・曹喜徹 (著) 白帝社.
- 『やさしく学べる韓国語初級』(2009) 金三順・北村唯司 (著) 白帝社.
- 『よくわかる韓国語 STEP1』(2002) 入佐信宏・文賢珠 (著) 白帝社.
- 『경희한국어 초급 1 문법』(2019) 경희대학교 출판문화원.
- 『아름다운 한국어 1-3』(2005) 안성희 (著) 한국어교육개발연구원.